

研究成果発表会を開催

原社長が23年度活動成果など紹介

日本建設技術(株)グループ



あいさつする原社長

日本建設技術(株)本社・唐津市北波多、原裕社長)グループは13日、唐津シーサイドホテルで2024年度研究成果発表会を開催した。関連会社の社員、来賓など約170人が出席し、原社長ら3人が成果発表を行った。発表会は毎年開催しており、今回で20回となった。

冒頭、原社長は「社員や会社組織の成長を目的に行ってきた、この研究成果発表会も節目の20回を迎えた。今後の発展のためには人材の確保と育成が非常に重要であり、新入社員の成長にも期待している。また、環境配慮型の会社としてガラス廃材を再資源化したミラクルソル工法の普及にも取り組んでおり、グリーンインフラの推進も図っていきたい」とあ



いさつした。成果発表では、企画開発戦略本部長なども務める原社長が「2023年のあゆみと防災と海のグリーンインフラ」の演題で発表し、23年度と同グループの活動内容、ミラクルソルを使ったFWG盛土造成や藻場再生のための着生基盤材の提案(海のグリーンインフラ)について説明した。

その中で原社長は藻場再生の提案について「筒状に加工したφ10センチから20センチの防錆金網基盤材を提案しており、これはミラクルソルの表面積を増やして海藻胞子が着生しやすいようにした形。今後は様々な藻場再生事業に提案したい」と話した。

続いて、建設事業部長が「集落で発生した地すべり災害に対する抑制工の施工事例」と題し発表。21年8月に嬉野市で発生した地すべり発生現場で行った集水井工やボーリング工事などの工事概要や騒音・振動対策などを解説した上で「民家に隣接する現場で工事着手前の説明会や工事使用を毎月配布することにより、地域住民のクレームやトラブルは少なく、無事故、無災害で工事を完成することができた」と述べた。

最後に建設事業部の榎崎甲子夫工事長が「特別養護老人ホーム御船荘温泉掘削工事」

について報告。武雄市東川登町で行った温泉掘削の工事概要、掘削地周辺の地質、工事の工程などについて説明した。

研究成果について、加藤合同国際特許事務所に加藤久会長が「原社長が会社を成長させる組織づくりが大事と話されたが、変化の多い時代に会社を成長させるには他の会社にならぬものを作ることが大事。今後も技術の開発と普及に粘り強く取り組んでほしい」と講評した。

このほか、業務実績が良かった功労者の表彰や新入社員の紹介も行われた。